

ミヤマオオハナムグリの分布について

高橋 寿郎

最近ある必要があって、G. Lewis の日本産コガネムシについての論文を見ていて、いささか気になることを見出したので、此処にその点についてのべてみたいと思う。

まず、1879年の論文 "On certain new Species of Coleoptera from Japan" (Ann. Mag. Nat. Hist. (5) IV:459-467) 中の p. 463 に北海道産♀標本で *Cetonia insperata* Lewis (ミヤマオオハナムグリ) なる新種を記載している。

1887年の論文 "On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonymy, and Localities" (Ann. Mag. Nat. Hist., XIX(5):196-202) の p. 198 に、4. *Cetonia insperata*, Lewis. I took about thirty examples in Yezo, Vries Island, Chiuzenji, Nikko, Wada-toge are other localities for it. とのべている。即ち、北海道にて30頭あまりの個体を採集しているが、他に Vries Island, 中禅寺, 日光, 和田峠—長野県の産地があるとなっている。その Vries Island というのが何処のことか調べてみたがよくわからなかった。たまたま1884年(明治17年)にアーネット・サトウの主編著になる「明治日本旅行案内」改訂第二版がジョン・マレー社から刊行されたものを庄田元男が訳した「明治日本旅行案内, 上, 中, 下巻」が平凡社から1996年に出版された。その中巻, p89-90 に「フリーズ島。Maerten Gerritsz der Vries はオランダの探検家で、1643年には北海道、千島、樺太などに来航した。この時は伊豆大島に寄港したことから同島は外国人の間ではフリーズ島とよばれていた」とあった。即ち、Vries Island は伊豆大島のことである。

G. Lewis は日本に2度来て(1867-1872, 1880-1881) (厳密にはそれ以前, 1864, 1865に日本に立ち寄ったことがある) 日本各地を採集しているが、はじめの時は長崎や神戸、大阪を中心として横浜、鹿児島ぐらいに限られているが、後の2年

間には北は北海道から南は九州まで精力的に歩き回っているが、伊豆大島へは行っていないようである。ただ後の時に G. Lewis によって訓練された日本人の有能な採集人を方々に送っており、その中には佐渡、伊豆大島も含まれている(湯浅啓温, 1927, 草間慶一, 1971, 藤野直也, 1994), そのことから、この伊豆大島産は採集人によって得られているものであることになる。そうなると、*Cetonia insperata* Lewis = *Protaetia (Liocola) insperata* (Lewis) ミヤマオオハナムグリの分布に伊豆大島があることになる。

このようにはっきりと伊豆大島の産地が出ているのに、その後の日本のコガネムシの分類研究論文とか目録、図鑑に図説された時の分布地などに伊豆大島というのが全く出てこない。本州の中に含んでいるといえればそれ迄であるが。ただ、1941年発表の八幡英夫の「日本産 PROTAETIA 属の種に就いて(1)」(昆虫 Vol. 15, No. 2, :75, 84) の中では産地に Yezo, Vries Island, Chiuzenji, Nikko, Wada-toge と Lewis の記録として記している。

Lewis の Vries Island という記録が間違っていたといったような記述は筆者の見た文献からは出て来ない。大体、ミヤマオオハナムグリというのは、本州、四国、九州の山地に分布しているような種に思われる(北海道には勿論産する)(和名はその意味のものがつけられている)が、伊豆大島のような島に分布しているとなると非常に面白い記録になると思われる。

伊豆諸島のコガネムシの記録も野村 鑽(1969)、石田正明(1979, 1984)の報文の中には本種は出てこない。したがって、本種が伊豆大島に産するかどうかははっきりとしない。一度調べてみたいと思うが現在では実現しそうにもない(本種の分布については筆者、1987、今坂正一、1991の報文も是非参照して頂きたい)。

<参考文献>

- 藤野直也(1994) 我が敬愛するジョージ・ルイス
biohistory 2(2):16-18.
- 今坂正一(1991) 日本産シロテンハナムグリ属に
ついて(1)(2). 月刊むし(248):4-8. (249):
13-18.
- 石田正明(1979) 伊豆諸島のコガネムシ類
月刊むし(104):29-34.
- 石田正明(1984)伊豆半島のコガネムシ主科につ
いて 東京経済大学人文自然科学論集. (68):43-
60.
- 草間慶一(197) ジョージ・ルイスの足跡につ
いて(上・下). 月刊むし(8):18-23. (9):14-20.
- 野村 鎮(1969) 伊豆諸島産コガネムシ主科の動
物地理学的研究. 昆虫学評論21(2):71-94.
- 高橋寿郎(1987) ムラサキツヤハナムグリとミヤ
マオオハナムグリについて. きべりはむし15
(2):31-42.
- 湯浅啓温(1927) 我が甲虫学会の恩人 GEORGE
LEWIS 逝く. 昆虫2(2):112-113.

(V. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

マツムシモドキの播磨地方での記録
相坂 耕作

マツムシモドキ *Aphonmorphus japonicus* は静
岡県以西にすむというが、兵庫県下での記録は大
変少ないと思われる。筆者は播磨地方の次の3地
点で採集したので記録しておきたい。

生息地はいずれも低山帯の樹上にすんでいたも
のであるが、揖保郡新宮町においてはすべてコナ
ラの葉上にて採集したものである。新宮町ではど
うやらブナ科植物の葉を食べるのではないかと思
われる。

翅に発音器がないとの事で、体を枝や葉に打ち

つけ発音させるというのが、赤穂郡上郡町産のもの
を飼育したが、鳴くところは観察できなかった。
採集データ

- 1ex. 30-VII-1995 三木市福井
三木山森林公園
多数 30-IX-1997 赤穂郡上郡町岩木
多数 5-X-1997 揖保郡新宮町宮内

(AISAKA KOUSAKU 姫路市大津区天満960-19)

食糞性コガネムシ3種の採集記録
蛭田 永規

相生市陸(くが)においてオオセンチコガネ、ク
ロマルエンマコガネ、コブマルエンマコガネを採
集したので報告しておく。手入れが十分でなく鬱
閉状態のヒノキの二次林内で、イノシシ(?)の糞
に集まっていた。

- 相生市陸 1997年6月10日
オオセンチコガネ 3exs.
クロマルエンマコガネ 2exs.
コブマルエンマコガネ 3exs.

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3)

上郡町で採集した蛾の記録の訂正
高島 昭

きべりはむし25(1)で報告した上郡町で採集し
た蛾の記録のうち、ミヤマフタオビキョトウ
Mythimna matsumuriana (Bryk) についてその後
検討した結果フタオビキョトウ *M.turca* (Linna-
eus) であると思われるので、訂正する。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)